

VI 平成28年度および過去3年間の事業実績に関する評価

COC統括機構は、茨城大学COC事業に関する事業目的の達成及び改善に資するため、進捗状況を評価することとしている。平成28年度および過去3年間の事業実績に関するの事業評価については以下のとおりである。

【審議経過】

- ①平成29年3月13日 COC統括委員会
自己評価書を了承
- ②平成29年3月22日 COC外部評価委員会
外部評価結果を確定
- ③平成29年3月22日 COC外部評価委員会・COC統括委員会 合同会議
外部評価結果を評価原案として承認
- ④平成29年6月19日 経営協議会 付議 評価結果確定

1 外部評価にあたっての基本的考え方

平成28年度茨城大学COC事業について、評価基準を当初事業計画に対する達成度に置き、以下の4段階にて評価を行った。

	S	A	B	C
評 価	当初計画を上回って実施された。	当初計画どおりに実施された。	当初計画をやや下回った。	当初計画を大幅に下回った。



右から増山委員長、加藤木委員、
玄蕃委員、横田委員



機構長からの謝辞



合同会議

平成28年度 茨城大学COC事業
評価結果

茨城大学COC統括機構

評 価	地域課題等の共有	S ・ A ・ B ・ C
	教 育	S ・ A ・ B ・ C
	研 究	S ・ A ・ B ・ C
	社 会 貢 献	S ・ A ・ B ・ C
	総 合	S ・ A ・ B ・ C

【講 評】

事業3年目を迎え、FD・SDの継続実施により、COC事業に対する全学での取り組みの方向性が統一されつつある。さらに、事業の中心となる「茨城学」も、年々内容の充実が図られており、受講した学生が地域課題解決のためのプロジェクトを立ち上げるなどの成果も出てきた。また、新たな取り組みとして「5学部混合地域PBL」や「学生コーディネーター制度」等もスタートした。特に後者については29年度からの本格的な活動が期待される。

以上のように、COC事業全体を通して内容の充実が図られていることから、総合評価は「A」とする。

【提 言】

- ・ 円卓会議等は年1回の開催ではなく、複数回開催することで「地域のニーズ」の把握に努めるべき。
- ・ パートナー企業との交流会や企業訪問を継続実施し、ニーズの把握と大学の情報発信に努めるべき。
- ・ 企業との提携の拡大による外部資金の獲得にも注力していただきたい。
- ・ 地域志向教育支援プロジェクトについては、もう一步踏み込んで、学生から地域への提案の発信に期待したい。
- ・ ライブラリーカフェは、地域住民と教員、学生が様々なテーマで語りあえる機会である。開催イベント数の増加により大学が地域の学びの場となることを期待したい。
- ・ 学部横断的な取り組みの拡大と、学生に対する情報発信に努めていただきたい。

平成26年度～28年度の総括と展望

評価（講評）

3年間の取組みを通じて、学内の方向性も統一され、各事業とも定着してきた。平成27年に開講した「茨城学」を中心とする地域志向教育は、地域に関心を持つ学生の増加や「イバラキカク」における学生の地域活動につながるなど、着実に成果を挙げている。

今後は、同窓会との連携、パートナー企業との連携等に注力しつつ、大学の存在を地域に認知させるためにも、各事業に継続して取り組んでいただきたい。

地道な活動の積み重ね、継続こそが成功のカギを握っていると信じている。

平成 28 年度 茨城大学 COC 外部評価委員会委員名簿

平成 28 年 4 月 1 日

	職名	氏名	所属	任期	備考
1	委員長	増 山 弘	(一財) 常陽地域研究センター 理事長	H28. 4. 1 ~ H30. 3. 31	第 3 条第 1 項第 1 号
2	委員	角 田 英 樹	茨城県 企画部参事兼企画課長	H28. 4. 1 ~ H30. 3. 31	第 3 条第 1 項第 1 号
3	委員	加藤木 克 也	(株) 三友製作所 代表取締役	H28. 4. 1 ~ H30. 3. 31	第 3 条第 1 項第 1 号
4	委員	玄 蕃 由美子	(株) 日刊工業新聞社 業務局次長兼広告部長	H28. 4. 1 ~ H30. 3. 31	第 3 条第 1 項第 1 号
5	委員	横 田 修 一	(有) 横田農場 代表取締役	H28. 4. 1 ~ H30. 3. 31	第 3 条第 1 項第 1 号